

令和2年度 近畿中国森林管理局事業評価技術検討会（持ち回り開催）で出された質問・意見と回答

【期中の評価】 紀伊田辺地区

委員から出された質問・意見	近畿中国森林管理局の回答
<p>○ 計画変更により、溪間工が減っているのはなぜか。</p> <p>○ 航空実播工について地元でも中々うまくいかないと聞いており、播く種によっては生態系にマイナスとなることも考えられる。効果があった事例等も参考のうえ、実施されたい。</p> <p>○ 紀伊半島大水害からの復旧においては十津川地区でも苦労した現場があるので、そうした箇所の調査・解析・対策技術も参考にしながら実施されたい。また、上秋津区域は近畿中国森林管理局では初めて実施する工種・工法も多いため、他局の事例を参考にするとともに、近中局のみならず和歌山県の技術力向上の場としても有効に活用することをお願いする。</p>	<p>○ 詳細な調査を実施し、復旧方法（工種）を見直したことにより、溪間工の計画基数に増減が生じた箇所があるため。</p> <p>○ ご意見を踏まえて実施してまいりたい。</p> <p>○ 署をまたいだ調査・解析・対策技術の共有は局の重要な役割として引き続き推進する。上秋津区域については、他局の事例も参考にしながら、技術力発展の好機と捉えて工事を進めてまいりたい。</p>

【完了後の評価】 高梁川下流地区

委員から出された質問・意見	近畿中国森林管理局の回答
<p>○ 列状間伐を行った箇所今後の施業は何を行うのか。</p> <p>○ 市町から天然林の施業について意見があったが、今後は天然林を切って植林を行うのではなく、自然の力で育成しているものを活用していくことが大事ではないか。</p> <p>○ 作業道の評価は行わなくても良いのか。また、林道と作業道の位置付けはどうなっているか。</p> <p>○ 民国連携について、成果があればアピールすべきと考えており、個表に記載できないか。</p>	<p>○ 1伐3残で切った箇所については、残った列をさらに列状間伐や選木間伐を行い、最終的には皆伐を行うことになる。</p> <p>○ 里山広葉樹を有効に活用し、再生させるモデルを構築するプロジェクトを平成 29 年度から実施しており、次回の計画には反映される予定である。</p> <p>○ 作業道は間伐と一体として契約しているため、評価に含まれている。林道は基準どおり設計のうえ施工するが、森林作業道は細かい設計は行わず、作設仕様書により地形・地質環境を考慮しつつ、斜面の安定性を確保しながら作設する。</p> <p>○ 評価地区においては、完了後の評価の期間である5年間では主立った成果が無かったため記載していない。</p>

上記のとおり、委員から出された意見に対し近畿中国森林管理局から説明した結果、妥当な計画であるとの了解が得られた。